随筆 筆者の見方・考え方の読み取り

私は菜の花が好きだ。春さきになると、花屋から求めてきた菜の花を、居間といわず書斎といわず花瓶にいっぱい活けて、その黄の花とみどりの葉をあくこともなくながめるのである。菜の花を見ていると、なにかしら春のいのちというようなものにじかに触れるような思いがし、みずからの内面に活気があふれてくるような思いがするのでもある。

小学校の三年か四年ころ歌った唱歌に「道をはさんで畑一面に、麦はほが出る菜は花盛り」というのがあったし、六年のころに歌ったものに「菜の　花畑に　入日薄れ、見わたす　山のは、かすみ深し」というのがあった。どの歌もいなかの風物を歌ったものであるから、いなか小学生の私たちには、まるで自分たちの環境を歌ってくれているような気がして、楽しく歌ったものであった。学校のゆきかえりの道は、まったくいちめんの菜の花畑で、春の日ざしにぎらぎらと光るその花群は、まるで黄の油のようで、まぶしいばかりであった。さらにその強烈なにおいは、少年の胸をはずませるのであった。菜の花などを折りとって花瓶に活けるなどということは、そのころ考えてもみなかった。そんな必要はなかったのだ。窓をあけると、いつでもその花は眼前に光っていたからである。（中略）

郷里をはなれて都会生活をするようになって、もう菜の花畑を見ることがなくなったので、せめてもの思いに、その花を活けて楽しむということになったわけだ。さきに活気を与える花だといったが、実はその裏にはまた、たちがたい※郷愁がひそんでいるわけなのである。

（木俣修『抒情巡礼』家の光協会　所収「菜の花」による）

※郷愁…異郷にいて、故郷を懐かしく思う気持ち。

筆者の見方・考え方と主題

随筆に表れる筆者特有の見方や考え方を捉えると、**主題**が読み取りやすくなる。

①文章の題や、繰り返し使われる語句などに注目し、**話題**を読み取る。

②話題に対する**筆者の意見・感想**を読み取る。

③**筆者特有の思い・考え**を捉える。

※特に、表現技法や印象的な描写が使われている箇所、筆者特有の視点が表れている箇所に注目する。

例題

本文の内容に合うように、解答欄に当てはまる言葉を本文中より探し、書きぬきなさい。

「私」は、菜の花が活気を与えてくれるように感じ、春さきには花瓶に活けて菜の花をながめているが、その裏には［　　］に対するなつかしさがひそんでいる。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文中の三つの形式段落の中で、過去のことを中心に描（えが）いた段落を一つ選び、その最初の三字を答えなさい。

(2) 筆者が少年時代に見た一面の菜の花の姿を、直喩（ちょくゆ）を用いて描いている一文を探し、最初の五字を答えなさい。

(3) ――線部「さきに活気を与える花だといった」とあるが、これは本文中のどの箇所（かしょ）を指しているか。一文で探し、その最初の五字を答えなさい。

(4) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア　春さきになると、筆者は菜の花畑から折りとった菜の花を活け、あくことなくながめている。

イ　菜の花畑が広がるいなかで過ごした筆者は、少年時代いつでも菜の花を活けてはながめていた。

ウ　都会生活で菜の花畑を見ることができなくなった筆者は、代わりに菜の花を活けて楽しむようになった。

〔　　〕